

RACE REPORT



SUPER
FORMULA

Round.02 **MOTEGI**

第2戦 モビリティリゾートもてぎ

2026年4月5日(日)

予選・決勝

天候：曇り／晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選 5番手 決勝：2位

#39 大湯 都史樹

予選 2番手 決勝：5位

あいにくのウェットコンディションとなり、セーフティカーランが長く続くなど満身にレースが行えなかった第1戦から一夜明け、2026年の全日本スーパーフォーミュラ選手権第1大会は第2戦の予選／決勝日である4月5日(日)を迎えた。雨は夜のうちに上がり、この日のもてぎは

晴れ間も見える天候。朝からグングン気温も上昇し、前日とはまったく異なるコンディションとなっていた。

4月3日(金)のフリー走行では好調だった大湯都史樹、そしてドライでのスピード改善を願っていた阪口晴南にとっては、待望のコースコンディションとなった。

QUALIFY 公式予選

4月5日(日) 10:10～10:55 天候：晴れ 路面：ウェット～ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'30.856 / #39 大湯都史樹 1'30.623

午前10時10分からスタートした第2戦の公式予選Q1は、気温20度／路面温度31度というコンディションでスタートした。晴れてはいるものの、レコードラインを外すと濡れた部分が残っている状況。ただタイヤはスリックタイヤを十分に履けるコンディションで、A組に出走した大湯はニュータイヤを履きウォームアップに入っていた。

は2台ともにチェッカー周りにアタックを敢行。ここで大湯が1分30秒623を記録し、2番手につけてみせた。「昨日は不甲斐ない予選になってしまいましたが、金曜の手ごたえからすると物足りないところもあるものの今日はチームと改善してきたことが繋がりました」と大湯。

ウェットパッチがあることを除けば、コンディションは好調だったフリー走行に近い。大湯は濡れた部分をやや気にしながらもアタックを敢行。1分31秒805を記録し、5番手につけQ2進出を果たした。

一方、阪口も大きくパフォーマンスアップ。1分30秒856で5番手につけ3列目グリッドを獲得した。「持ち込みからここまで改善するのは珍しいくらいです。自信にもなりますし、チームのおかげです」と阪口は笑顔をみせた。

続くB組に出走したのは阪口。フリー走行では「近年でもないくらい」の不調だったが、第1戦ではそれをしっかりと確認しきることができなかった。阪口はウォームアップの時点で改良を実感し、1分31秒321を記録すると4番手に。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台ともにQ2進出を果たし、第1戦の雪辱を果たした。



午前10時45分からスタートしたQ2は、やや雲が増えるなかスタートした。上位陣では2回連続のアタック、一度クールダウンを挟んでのアタックなど戦略が分かれていくが、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING

RACE

決勝レース

4月5日(日) 14:45~16:49 天候:曇り 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'31.379 (28L) / #39 大湯都史樹 1'32.571 (13L)

公式予選の後、モビリティリゾートもてぎはやや雲が広がったものの、午後2時45分からの決勝レースは気温22度/路面温度28度というドライコンディションで迎えた。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは大湯がフロントロウの2番手、阪口が3列目の5番手からレースに臨むと、大湯、阪口とも素晴らしいスタートを切った。

1コーナーまでの攻防で、大湯はポールポジションの#6太田格之進に牽制をかけられるが、#6太田は1コーナーでアウトにはらみ、大湯はその間にスルスルとトップに浮上。さらに阪口もアウト側から猛然とダッシュを決め、3番手に浮上。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGはトップ、3番手と絶好の位置で序盤戦を進めた。

レースは1周目から中盤の争いでクラッシュが起きるなど荒れた展開となったが、3周目にはビクトリーコーナーで#28小林利徠斗がコースアウト。序盤からセーフティカーが導入された。

7周目、レースがリスタートを迎えると大湯はオーバーテイクシステム(OTS)を使いダッシュをみせるも、翌周OTSが使えないタイミングで#6太田が猛プッシュを仕掛けてきた。しかし、大湯はこの攻勢をしっかりしのぎ、10周を終えピットウィンドウがオープンすると、トップのままピットに入りタイヤ交換を行った。ピットアウト後、大湯は快調なペースで周回。未ピット組の集団を追った。

ただその最中、後方集団を抜く際に大湯はわずかにタイムをロスしてしまう。さらに大湯はレース中盤以降、どんどんペースが苦しくなってしまった。

20周を終えて序盤トップを争っていた#6太田がピットインするが、大湯の前でピットアウト。為すすべなくオーバーカットを許してしまうことになった。

一方阪口は、ピットインを遅らせる作戦を採った。前を行く#6太田とは3~4秒ほどのギャップでのレースを続けていき、レース後半以降、燃料が減り軽くなっていくと、自己ベストタイムを毎周のように更新。こちらは終始好ペースで、大湯、さらに#6太田とのタイム差を見ながら24周を終えピットイン。レース後半、苦しいペースで防戦一方だった大湯の前で阪口はピットアウト。2番手についた。

レース終盤、2番手を走る阪口はファステストラップを記録しながら#6太田を追い、最終周には#6太

田にトラブルが発生していたことから肉迫したものの、届かず2位でチェッカーを受けた。一方大湯は#14福住仁嶺にも先行を許し、後方からは#19ザック・オサリバンをはじめとした集団が迫るも、これを抑え5位でゴールした。

阪口は今季初、そして2021年以來の表彰台獲得と嬉しい第2戦となったが、大湯は悔しい一戦に。次戦、チームはダブル表彰台、そして勝利を目指していく。

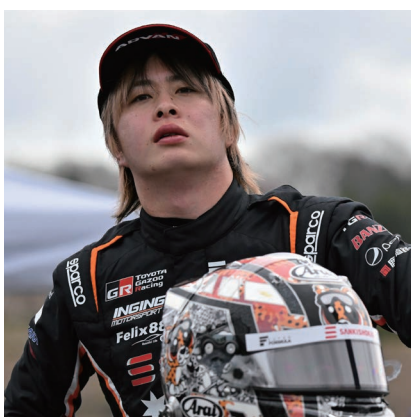


COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「5番手スタートで表彰台に立つことができ、嬉しいです。自分が前に獲った表彰台ももてぎだそうですね。ここまで結果がなかなか残らないなかで僕を信じて起用してくださったチームに感謝したいと思います。スタートの位置取りも良かったですし、戦略もすごく良い点数がつけられるものだったと思います。チームの総合力を示すことができたと思いますし、オフに頑張ってくれたのが伝わりなおさら嬉しかったです。今回、金曜の不調から立て直すことができたのは自分にとってすごく大きなことです。ただ次戦のオートボリスはまったく違う週末になると思うので、良い意味で今回の結果を捨てて、自分たちの頭脳で、最善の方向性を見出していきたいと思います」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「スタートでトップに立つことができ、すごく盛り上がったと思うんですね。阪口選手も3番手に上がって『ピットは盛り上がってるんだろうな』と思うくらい落ち着いて序盤は戦うことができたと思います。レース序盤にピットインする作戦も、まわりはどうしているか分かりませんが、良かったと思っています。ピット作業も今週いちばん早かったですね。敗因はただただペースが苦しかったことに尽きます。フリー走行ではロングランを試すことができなかつたにしろ、それなりにペースに自信はあっただけに残念です。終盤は前を追うどころではなく、うしろを抑えることで精一杯でした。ポイントは獲れましたが、不幸中の幸いくらいの気持ちです」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「阪口選手がひさびさの表彰台に登ることができ、良い戦いをしてくれたと思います。フリー走行では不調でしたが、阪口選手と38号車のみんながよく立て直してくれたと思います。優勝の可能性もあったので、次は勝利を狙っていきたいですね。大湯選手はフリー走行から調子が良く、第1戦の反省を活かし予選2番手につけられたのは良かったです。決勝ペースと戦略に課題を残してしまいました。こちらは次戦に向けて課題解決へ取り組んでいかなければいけません。今回は阪口選手が表彰台に登ることができましたが、今度は大湯選手とのダブル表彰台を獲りたいですね。第1戦／第2戦とたくさんの応援ありがとうございました！」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第2戦モビリティリゾートもてぎ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:00'49.123	
2	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:00'50.081	0.958
3	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'02.333	13.210
4	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'09.468	20.345
5	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'13.473	24.350
6	19	Z. オサリバン	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'13.893	24.770
7	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'14.676	25.553
8	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'14.892	25.769
9	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'15.228	26.105
10	22	松下信治	DELIGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'16.088	26.965
11	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'16.509	27.386
12	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'17.035	27.912
13	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'17.859	28.736
14	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'17.995	28.872
15	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'20.496	31.373
16	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'21.883	32.760
17	97	R. スタネック	ナビクル Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'22.531	33.408
18	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:01'31.190	42.067
19	9	野中誠太	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'40.850	51.727
20	53	C. プルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'42.270	53.147
21	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	37	1:01'48.756	59.633
22	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	37	1:02'05.620	1'16.497
以上完走							
37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23		TOYOTA/TRD 01F	28	50'16.620	9Laps
28	小林利徳斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23		TOYOTA/TRD 01F	1	1'50.899	36Laps

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	35
2	38	阪口晴南	15
3	1	岩佐歩夢	14.5
4	14	福住仁嶺	11
5	39	大湯都史樹	8
6	3	L. ブラウニング	8
7	64	佐藤蓮	6.5
8	19	Z. オサリバン	5
9	12	小出峻	5
10	8	山下健太	4

チームランキング (上位)

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	30
2	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	21
3	TEAM MUGEN AUTOBACS	12
4	NTT docomo Business ROOKIE	11
5	PONOS NAKAJIMA RACING	9.5
6	REALIZE KONDO RACING	8
7	ThreeBond Racing	5
8	TEAM IMPUL	5
9	KCMG	4
10	VANTELIN TEAM TOM'S	3.5